

作文コンクール 最優秀賞 (奈良県北方領土問題教育者会議会長賞)

北方領土問題の未来を考える

香芝市立香芝西中学校 柳沢 美結

領土問題とは、今や世界を代表する問題の一つとなっている。そして、この領土問題は日本とも非常に深く関わりがある問題である。日本の領土問題を挙げると、竹島、尖閣諸島、北方領土など、きりがなく、日本がどれだけ領土問題で悩んでいるかが分かる。しかし、ここでは、北方領土の問題を注目して見ていきたいと思う、

北方領土とは、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四つをはじめとする島々のことである。これらの領土は、元から日本の領土であるにも関わらず、現在、ロシアが勝手に占拠して、「我が国の領土である。」

と主張している。そして、今もなお、ロシアに不法に占拠されたまま、日本の返還要求に対しても、ロシアは強硬な姿勢で臨んでいて、日本に返還されていない。

そもそも、なぜ国土面積が世界一である大国ロシアがこの島々にこだわるのか。私は、それが謎で調べてみた。

その答えは、2つある。まず一つ目は、海洋資源。そして二つ目は、現在、北方領土に住んでいるロシア住民への対応だ。この2つの問題を解決、あるいは、進展させることができれば、おそらく北方領土問題は解決に向けて大きく前進することができるだろう。

私はここで「共存」という方法を提案する。この方法を実施することで、日本とロシアの双方に多くのメリットがある。まず、日本側のメリットは、漁業をするときに、魚をとれる範囲が大きくなり、とれる魚の量が増える。そして、ロシア側のメリットは、日本からの投資や援助が期待でき、貿易の拡大も望めるという点だ。そして、この方法で一番救われるのは島民である。

こうすることで、元々、北方領土に住んでいた日本の島民、また現在のロシアの島民がどちらも分け隔てなく暮らせて、不法に占領される前に近い状況に戻れるのである。昔の日本の島民も現在のロシアの島民も島を愛する心に違いはないはずだ。どちらも同じように島を愛しているはずだ。この気持ちがあれば、決して「共存」の考え方は難しくないと思う。

しかし、この問題は未だに日本とロシアの間で平行線をたどっている。この問題を進展させるためには、日本政府が根強く交渉を行うことが大事だ。また、これには、交渉を行うための支えも必要になってくる。太い支えを築くためには、国民全員がこの問題について考え、向き合っていくことが大事である。そして、それができた時、日本政府は、決してへこたれない強い支えを手に入れることができるだろう。

私たちは、政治家のような権力をもっているわけではない。だが、自分の思いを発言することはできる。一人の力は小さくても、それがたくさん集まれば、とても大きな力になる。そして、私達は忘れてはいけない。これからのこの問題を動かすのは、未来を担う私達であることを。